



FinTechでIoT時代の モバイルバンキング ソリューションを創造。

OKI
金融ソリューション事業部 SE第二部

相良 雅宏

スマホから既存銀行システムに安全・簡単にアクセスする仕組みを開発

神奈川県相模川流域の田園地帯で生まれ、日常的に自然とふれあっていたせいか子供の頃から自然科学に興味を持つ理系少年でした。そういった経緯で、大学は工学部(原子力工学科)に進学。大学院では応用物理学を専攻し、研究室ではFORTRAN*を使って核エネルギーの監視に関する数値シミュレーションを研究テーマとしていました。その際、コンピューターやプログラミング技術に興味を覚え、また、この頃5年間程、塾講師をしていたこともあり、人前で話すことには慣れていたので、就職に際しては顧客接点の機会が多い技術職、つまりはSE的な業務が向いていると思い、OKIに応募してみました。

入社(2004年)当初は、銀行口座からフィーチャーフォン(ガラケー)へのEdyや交通系電子マネーチャージなどに携わりました。やがて、2007年からOKIのトレーニー(研修)制度により、某メガバンク本部に勤務し、銀行業務の実務を経験。ガラケー向けアプリをはじめとするモバイル系施策の企画なども担当していました。その後、2010年にOKIに戻ってからは、金融向けスマホアプリなどのWeb系システムの提案型SE業務を担当。モバイルバンキングは、ガラケー向けのブラウザ対応からアプリ対応、そしてスマホ普及以降はスマホ向けのブラウザ対応からアプリ対応へと進化してきましたが、私自身もそのトレンドをトレースするように、入社以来、一貫して金融市場のICT化、いわゆるFinTech(フィンテック)の新しい取組みに参画しています。

その中で、直近の成果として本編でも紹介しているのは「OKIスマートバンキングソリューション」。これは既存のインターネットバンキングシステムなどと連携し、残高や入金明細が照会できるスマホアプリ導入を支援するソリューションです。また、SNSを使ったサービスや電子マネーチャージなどにも対応しているのも大きな特長です。

仕組みとしては、スマホアプリからゲートウェイを中継して既存のインターネットバンキングシステムにアクセスします。スマホアプリと既存バンキングシステム間のデー

タのやり取りやセキュリティーなどといった煩雑な処理はすべてゲートウェイ側で行うことで、既存システムに与える負荷を最小化することで、短納期、低コストで利便性の高いサービス提供が可能です。技術的にはスマホアプリやゲートウェイ側のAPI(Application Programming Interface)など開発が必要でしたが、これらはOKIの得意とする技術分野であるため、それほど難しいものではありませんでした。ただ、スマホアプリのエンドユーザー環境(OSや機種など)や設定はさまざまであるため、想定外の動きをした場合のフォローや対処に苦労しました。また、スマホアプリはゲームアプリのイメージが強いのか、お客様の中には安くて簡単にできると思い込んでいる方もいます。そのため、SEとしては、セキュリティーの強化など、それなりのコストや手間がかかるということを納得していただくことが必要でした。その点においては、過去にトレーニーとして銀行勤務の経験があり、銀行の業務や内情などに精通していたことが大いに役立ったと思います。

今後もこの技術をベースに、金融機関の既存システムを活用しながら、時代のニーズにフィットした新たな価値やサービスを提供し続けるつもりです。そのために、ブロックチェーン(分散型台帳管理)やAI(人工知能)など最先端技術の活用も視野に入れた技術的な検討にも着手し始めたところです。また、このような仕組みは、金融機関以外にも、流通業、交通・旅行業など、多くの業種にも潜在的なニーズがあるはずなので、新規市場開拓にもチャレンジしたいです。さらに言えば、IoTが進む現在においては、将来的にはエンドユーザーの端末環境が激変することも想定されます。私たちとしても、そういった環境変化に対応できる備えを怠るわけにはいきません。まだまだ課題は山積しています。

プライベートでは、子供のために思い切って一軒家を購入。一刻も早いローンの繰上げ返済に向けて、今後も懸命に働き続けることが家族を支える父としての大きな使命です。

*主に科学技術計算に使われるプログラミング言語